



沖縄スポーツ・ヘルスケア産業を取り巻く課題や、それに挑戦する企業を紹介する「スポーツ産業の未来」。2回目となる今回は、沖縄のプロスポーツを牽引する琉球ゴールデンキングスと、チームの新たな拠点となる沖縄アリーナについてお伝えします。

## 琉球ゴールデンキングス

～沖縄アリーナが新たなスポーツシーンを生み出す～



スポーツ・ヘルスケア産業を取り巻く課題や、それに挑戦する企業を紹介する「スポーツ産業の未来」。2回目となる今回は、沖縄のプロスポーツを牽引する琉球ゴールデンキングスと、チームの新たな拠点となる沖縄アリーナについてお伝えします。

琉球ゴールデンキングスは、2007年に沖縄のプロバスケットチームとしてゼロからのスタートを切りました。当初は観客千名程度と苦しい時期を経験しましたが、ファンに支えられながら躍進を続け、ホームゲームには3000名以上のファンが会場を埋め尽くすまでの人気チームに成長しました。さらなるチームの可能性を模索し、キングスと沖縄市が二人三脚で構想してきた「夢のアリーナ」は、収容人数最大1万人という大きな可能性を秘めたプロジェクトです。そこで今回、沖縄アリーナ株式会社取締役社長兼沖縄バスケットボール株式会社代表取締役社長の木村達郎氏にお話を伺いました。

**沖縄アリーナ始動！**  
新鋭技術による「感動と興奮」

沖縄アリーナは、従来の競技をすることに主眼を置いた施設ではなく、

「観る」ことを最大限に楽しめる空間になつており、国際的なスタジアム・アリーナ改革で推進する、地域活性化の起爆剤となりうる交流拠点としても注目を集めています。コートを間近で感じられるよう設計されたすり鉢状の観客席は8000名以上のファンの「感動」「興奮」を引き出すとともに、プライベート空間でエンタテインメントを楽しめるVIPルーム（個室）、パノラマラウンジ、キッズスペースなど、ビジネス層からファミリー層まで幅広いターゲットが快適な時間を過ごせるよう、様々な工夫が施されています。また、国内のアリーナでは初となる常設「4 D REPLAY」、約250mのリボンビジョンといった新鋭技術の導入のみならず、館内や来場前後における混雑緩和策として、リアルタイムな情報発信の仕組みも整えられています。



## アリーナに込められた想い

これまでの体育館の概念を大きく変える沖縄アリーナ。「観る」ための設えを備えたアリーナが理解されない頃か



キングスの設立時、決して根付かないと言わながら、沖縄で着実にファンを増やしてきたように、時間を掛けて新たな観戦文化を醸成していく試みは、多くの人に夢を与える大きな可能性を秘めています。

来に根付かせること。琉球ゴールデンキングスの設立時、決して根付かないと言わながら、沖縄で着実にファンを増やしてきたように、時間を掛けけて新たな観戦文化を醸成していく試みは、多くの人に夢を与える大きな可能性を秘めています。



## 新鋭技術を感じる場

アリーナ内には、お掃除ロボットや配膳ロボットなどが導入され、新鋭のデジタル技術に触れられる場になるとれます。施設が陳腐化しないよう、アップデートを重ねていくと語る木村社長は、「デジタルネイティブの世代でも新たな学びを得られる場、実証実験などを通じた沖縄県全体のデジタル化や、DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進していく場として、発展を続ける沖縄アリーナの将来像を描



【お問合せ先】  
経済産業部 企画振興課  
**☎098-866-1727**

### 取材

沖縄スポーツ・ヘルスケア  
産業クラスター推進協議会  
プロジェクトマネージャー  
**青田 美奈**  
(株)レジスタ 取締役COO

中長期的には、県民をはじめ多くの来場者のデジタルリテラシーの向上は元より、沖縄経済・社会の発展も期待されます。

## キングスと沖縄アリーナが創る未来

木村社長は、エンターテナーでもある選手のプレイが沖縄アリーナの大きな空間の最も遠い最後列の席からでも、どう見えているか考えてもらうことで選手の高いモチベーションを引き出すとも語ります。今後、ひとつ目のプレイ

じよいよ4月10日、琉球ゴールデンキングスのホームゲームを皮切りに、沖縄アリーナがプレオープンします。今年6月の本格始動を目前に、キングスと沖縄アリーナが織り成す「新たな文化」が生まれる瞬間に、私たちは立ち会おうとしているのかもしれません。なること。